

意見交換 1回目

A 班、B 班の2グループに分かれて実施。

A 班では、メンバーそれぞれの活動や思いを共有し、意見交換する中で、人とのつながりや広報についての課題があがりました。B 班では、空き家の活用や河川敷の活用、多世代交流などの課題があがりました。班のメンバーで協力してできることとして、A 班B 班とも地域活性化や多世代交流を目的とした、「道の駅」を作るというアイデアが出ました。

A 班

参加者の意見（課題やアイデア） ※抜粋

- ・人のつながりが大切。つながりが希薄。
- ・デジタルが発達しても、人のつながりやぬくもりが大事。
- ・デジタル媒体でのつながりは若い世代だけが盛り上がっている。
- ・ぬくもりはデジタル媒体では伝えることが難しい、どう伝えていけるか。
- ・プラットフォームとして「道の駅」を作る。

B 班

参加者の意見（課題やアイデア） ※抜粋

- ・東淀川区は空き家が多い。空き家の活用は課題。
- ・空き家を「防災倉庫」や災害時の「小さな避難所」に活用できないか。
- ・地域を盛り上げるプレイヤーを増やしたい。そのためのツールを作っていく必要がある。
- ・東淀川区には淀川が流れている。河川敷の活用した方がいい。
- ・地域活性と河川敷の活用を目的に「道の駅」を作るのはどうか。
- ・「道の駅」は多世代が交流できる場所になる。多世代が交流できる場所が少ないし、交流を生みだす必要がある。
- ・「道の駅」は常設が難しければ、年1回イベントとして実施してもいいのでは。
- ・「道の駅」イベントでアップサイクルガレッジセールを開催する。
- ・「道の駅」で実施するワークショップとして、子ども向けのハッカソン（プログラミング体験）を行うのはどうか。

意見交換 2回目

各班メンバーを半数ずつ入れ替えて行った2回目の意見交換会。

A班では、地域の子どもの関わり方や、年配の方が楽しく暮らすにはなどの話題が、
B班では、企業の社会貢献、地域貢献をする上での思いや、進め方、子どもの居場所を運営する上での難しさなどの話題が話し合われました。

A班

参加者の意見（課題やアイデア） ※抜粋

- ・子どもが困っているときに助けたいと思うが、どう対応するのが正解かわからない。
- ・地域の子どもの関わり方はどうすればいい？
- ・子どもの居場所として宿題カフェがある。
- ・年配の方も楽しく暮らすにはどうすればいいか。年配の方が楽しめる認知症カフェやふれあい喫茶などが地域にある。

B班

参加者の意見（課題やアイデア） ※抜粋

- ・企業として社会貢献、地域貢献を行う際、行動する際に社内に仲間を作った方がいい。
- ・民間企業に所属する人間が地域貢献や社会貢献につながる事業を行う際、熱意や思い、自分が楽しいかが原動力になる。
- ・企業理念と合致した社会貢献、地域貢献の事業を行うことが大切だと思う。
- ・子どもの居場所の告知は難しい。子どもがたくさん来てくれることが良いこととは限らないので複雑。
- ・東淀川区は子どもが減っているのではないか。原因を考える必要がある。
- ・子育て世代（保護者）を対象にしたコミュニティカフェを区内に作る予定。大経大の学生たちと連携して計画を進めている。